

<その他、取組に特徴のある事例>

○晩期貯蔵温州生産への取組み

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	愛媛県伊予郡砥部町 <small>いよぐんとべちょう</small> 上原1 <small>かんばらいち</small>			
協定面積 4.4ha	田	畑 (100%)	草地	採草放牧地
		果樹		
交付金額 36.8万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)			共同防除・農薬代 44%
				役員報酬 5%
				その他 1%
協定参加者	農業者 5人			開始：平成12年度
人・農地プランの作成状況	集落全域で作成済			

2. 取組に至る経緯

上原1協定は、標高150m～250mの急峻な山間地に位置し、町の主要作物の果樹(みかん、キウイ等)の栽培を行っている。しかし、近年の農産物・果樹価格の低迷により果樹経営も年々厳しい状況となってきた中で、今後の集落維持・優良農地の確保のために、平成12年度(第1期対策)から積極的に中山間地域等直接支払制度に取り組んできた。

3. 取組の内容

協定参加前まで地域で栽培していた伊予柑にかわる作目を模索していたが、品種別経営分析を行った結果、既存貯蔵庫を効率的に利用できる、普通温州を協定地の過半面積に主力品目として位置づけた。水利施設のクーラー等を共同利用することにより、防除・灌水の効率化を図り、更に協定に参加したことで交付金の恩恵を受け、生産活動の基盤を揺るぎないものにすることが出来た。

2、3月に出荷する貯蔵ミカンが高単価を確保し、経営の安定につながっている。

また、JAえひめ中央晩期貯蔵温州研究会を立ち上げ、協定の代表者が会長を務めるなど、地域において安定した出荷を目指すと共に、地元農家に生産への理解と協力を働きかけるなど、地元柑橘の生産振興にも尽力している。



【農道維持管理作業】



【園地と共同防除作業】

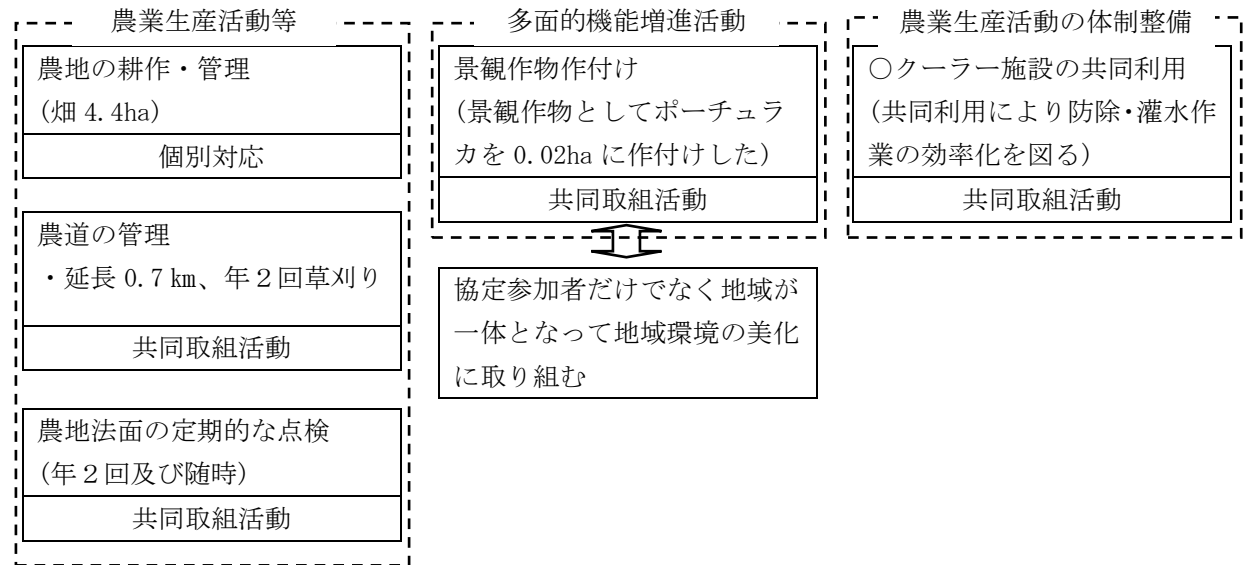
[集落の将来像]

- 地域の実情に即した持続的な農業生産活動等の体制整備を確立させる。



[将来像を実現するための活動目標]

- 協定参加者の高齢化が進行する中で、高齢者も安心して農業に取り組めるように集落の話合いにより、協定参加者全員でのサポートを行う。



集落外との連携

- 品質の良い貯蔵温州の生産地、また優良圃場として各種研修会や視察の受け入れに対応した。

4. 今後の課題等

高齢化の進行により、ますます管理が困難となる農地が増加することが予想されるが、更に特色ある栽培方法の導入や直売ルートの開拓等により、営農意欲を維持し、集落ぐるみで地域農業を担う経営者を育成していくことが課題である。

また、これまで水利施設のクーラー等を使用するにおいて、水利管理ブロックが複数に重なっている園地の非効率性の排除と、関係水利との調整が不十分であったため、その改善に努める。

[第 2 期対策の主な成果]

- 園地や農道の適正な維持管理
- 耕作放棄地の発生防止と景観作物作付けによる集落景観の向上
- 優良圃場として各種研修会や視察の受け入れによる同業他地区農家との交流